



# The Star in the West

## 東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3 20 2-03 4 2

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER, 2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

- 国際会長主題 「輝かそう、あなたの光を」
- アジア会長主題 「変革のための光となろう」
- 東日本区理事主題 「未来のために今、学びと気づきを！  
未来のために自信を育み、真の喜びに出会う！」
- あずさ部部長主題 「良い結果をもたらす心の安定と考える力を」
- 東京西クラブ会長主題 「無理をしなくて歩く 希望の光に向かって」

2024年2月号

NO 569

だから、あなたの中にある光が消えていないか調べなさい。あなたの全身が明るく、少しでも暗いところがなければ、ちょうど、ともし火がその輝きであなたを照らすときのように、全身は輝いている。  
ルカによる福音書11：35・36

### YMCAは素晴らしい

神谷 幸男

パレスチナ、ウクライナでの戦争の停戦のないまま 2024 年を迎えました。年が明けたとたん能登半島で大地震が発生し甚大な被害が発生しました。数多くの家屋の倒壊、道路を塞いでいる土砂崩れの数々を TV 画面で目にし、もはや手の打ちようがないと思ってしまうような惨状です。愛する人を失い、また今も生死もわからない人のおられる家族の方々、怪我を負われた方々、住む家を無くした方々、町が孤立し平常の生活ができなくなった方々、そして避難生活を余儀なくされている方々の負っている心の傷は私たちの想像を超えるものでしょう。

各マスコミはこれを大きく取り上げ、被害状況、復興作業に関して政府、自治体、諸ボランティア団体の活動を連日流布しています。これを受けて我々は心を痛め、我々のできることは何かを

模索しています。YMCA も直ちに被災支援活動を実施しています。YMCA は日頃人格形成に係る活動を多岐にわたって展開していることは周知のとおりですが、特に今回のように自然災害による被災者への物的・心的支援は、既に行われている戦火を逃れてきた避難民に対する支援と同様、心に響く素晴らしい活動です。

YMCA の会員の一人として素晴らしい団体に属していることを本当に誇りに思います。更に YMCA と協働するワイズメンズクラブに属していることを誇りに思います。この誇りをバネに一層 YMCA 人として努めていきたいと思ひます。

今、YMCA・ワイズメンズクラブは能登半島震災復興募金活動を展開しています。クラブとしても個人としても最大限協力いたしましょう。

### - 2月WHOウォーキング 下町・戦禍慰霊碑巡り

期 日：2024年2月24日（土）  
コース：JR 錦糸町南口→錦糸公園・千種稲荷神社→精工舎跡→法恩寺→旧隅田電話局慰霊碑→能勢妙見山別院→大横川親水公園で昼食→親水公園を南下→旧長崎橋で北斎通りへ→能見宿禰神社→すみだ北斎美術館→横網町公園内東京都慰霊堂・復興記念館→旧安田庭園→国技館→JR 両国駅で解散  
集 合：JR 錦糸町駅南口（JR 錦糸町駅のビルを出た広場）  
10：00 時間厳守  
受 付：初回の方は、必ず住所を書いて下さい。  
解 散：JR 両国駅・大江戸線両国駅 14：30 ごろ  
携行品：名札、マスク、弁当、飲料、雨具、  
参加費：300 円、名札代 200 円。  
(名札は必ず着用して下さい)

### クラブ役員

- 会 長 本川 悦子
- 副 会 長 神谷 幸男
- 書 記 村野 絢子
- 会 計 篠原 文恵
- 担当主事 横山 弥利

1 月 の 記 録		ニ コ ニ コ	16,870 円
在籍者数 11人 (内功労会員) 1人	メ ネット 0人	クラブファンド	0 円
出席者数 10人	コ メ ッ ト 一人	ファンド残高	114,715 円
メーカーキャップ 0人	ビ ジ タ ー 3人	ホテ校ファンド	5,500 円
出席率 100%	ゲ ス ト 0人	ホテ校残高	39,870 円
内 Zoom 参加 0人	出席者合計 13人	WHO 参加者	41人

## 2月TOF例会のご案内

強調テーマ： TOF(断食の時)  
FF(家族で断食の時)  
HTW(世界を癒そう)

依然寒さは厳しいですが立春を迎え、太陽が明るく輝き始めました。

2月例会は梅の香りを感じながら茶の湯を楽しもうという趣向です。お友達を誘ってご出席ください。

日時：2月15日(木) 18:30~20:30

会場：阿佐谷地域区民センター 4階和室

(杉並区阿佐谷北 1-1-1 TEL 03-5336-9501)

会費：500円(どなたも)

担当：B班(大野、河原崎、篠原)

HAPPY BIRTHDAY

8日 高嶋美知子

受付 篠原 文恵  
司会 河原崎和美

開会点鐘 会長・本川 悦子  
いざたて斉唱 一同  
聖書朗読・祈祷 大野 貞次  
会長挨拶・ゲスト、ビジター紹介

卓話 茶の湯の真髄 深尾 香子さん  
景福庵名倉宗香(けいふくあん・なくらそうこう)  
(東京多摩スマイルクラブ)

会食 一同  
ハッピー・バースデー 会長  
ワイズ報告 会長  
YMCA 報告 横山担当主事  
ニコニコ 一同  
閉会点鐘 会長

### —1月事務会報告—

日時：1月25日(木)

16時30分~18時30分

会場：阿佐谷地域区民センター  
第8集会室

出席者：神谷、河原崎、篠原  
本川、村野

<報告事項>

①会計報告：

別紙報告書で承認された。

②1月13日(土)

東陽町 YMCA センターにて東京グリーンクラブ主催の会長会と在京新年会が行われた。

当クラブの出席者：石井、河原崎、篠原、高嶋、本川、村野

③1月例会のニコニコを能登半島地震支援に募金をしました。

<協議事項>=例会以外=

①2025年度の会長会と新年会の輪番は東京西クラブが担当です。

<協議事項>=例会関係=

①2月 TOF 例会は、東京多摩スマイルクラブの深尾香子さんにお茶会をお願いしました。

②3月の世田谷クラブとの合同例会は世田谷クラブが担当。会場は、YMCA 山手センターです。

③4月、5月の例会卓話者は未定です。

<その他>

①第2回あずさ部桑都(そうと)評議会

2月10日(土) 13:00~18:00  
高尾の森わくわくビレッジ  
登録費 3,000円

②東京西クラブ 50周年について提案した。

(書記代理・本川悦子)

### 第25回アジア賞授賞式の —コマ

松本クラブのCS活動の一つであるアジア賞なる事業は地域おこし、国際親善に大きく貢献している活動である。その成果の発表の場でもあるアジア賞授賞式に参加することは、留学生の学業生活、日本を見る心の目を知る学びと楽しみとがあるが、加えて留学生との交流が楽しい。

今回は、懇親会で同じテーブルに座ったベトナム出身の女子学生(お名前を記したメモをなくして名前を忘れた)と中国出身の男子学生(同前)とのささやかな交流。大学では何を専攻している

(P6・3段に続く)

### 卓話者紹介

深尾 香子(ふかお・きょうこ)さん  
(東京多摩スマイルクラブ)

3歳頃、親に連れられて行った野点席が楽しくて、家にあった道具で遊ぶようになる。

1983年江戸千家宗家直門教室に入門、2009年指導者指導員資格を受許。

茶名は景福庵名倉宗香(けいふくあん・なくらそうこう)。茶道実技の他に、縁有って、茶道史、市民活動&青少年事業、水屋仕事を他流の先生方に師事し、以来、自宅教場の他、学校、企業研修等の依頼を受けている。



アジア賞授賞式でのスナップ、学生さんの後ろに当クラブの神谷さん



左は1月例会出席者の集合写真。下はユーチューブの映像を駆使して懐かしいポップス歌手の映像を披露された卓話者の樋口さん



### —1月例会報告—

#### 日本のポピュラー音楽史

東京西クラブ1月例会は、1月18日に阿佐谷地域区民センターで東京グリーンクラブ会長の樋口順英さんをお迎えし「日本のポピュラー音楽史」と題してお話を伺いました。ビジターに東京江東クラブの藤井寛敏さんと東京たんぽぽクラブの藤江喜美子さんにご出席いただきました。

今回の卓話のテーマは、①アメリカンポップスが入ってきた時代→GHQがもたらしたジャズ、カントリー、ロックンロール ②日本の音楽界での新しい動き→日本人によるイノベーション「日

劇ウエスタンカーニバル」。日劇ウエスタンカーニバルは大成功をおさめ、平尾昌晃、ミッキーカーチス、山下敬二郎のロカビリー3人衆については私にとっても忘れられない青春時代です。③ビートルズに続くブリティッシュの時代 ④加山雄三からグループサウンドに続く日本のサウンド ⑤Jポップスの始まり→以降現在まで。

わかりやすい説明とともに映像を交えて懐かしい曲の数々を聴きあの時代が走馬灯のごとく蘇ってまいりました。

1959年から始まったザ・ヒットパレードも私たちがテレビの

前に釘付けにしました。

この日の樋口さんの卓話はまさにわれわれ世代を感動させ身を乗り出して聴き入るとても楽しいものでした。本当にありがとうございました。

最後に能登半島地震募金としたニコニコの16,870円を東京YMCAへ献金、会長の閉会点鐘で幕を閉じました。(河原崎和美)  
出席者：石井、大野、神谷、河原崎、篠原、高嶋、本川、村野、吉田、横山、<ビジター>樋口(東京グリーン・卓話)、藤井寛敏(東京江東)、藤江喜美子(東京たんぽぽ)

### —1月WHO報告—

#### 人形町界隈と日本橋七福神めぐり

人形町エリアは様々な歴史的背景をもち、いまなお下町情緒が色濃く残ります。その合間に七福神の神社がほっこりと佇んでいます。

この地域は狭い道幅に数多くの老舗が軒を並べる東京有数の人気グルメスポットでもあり、人通りが多いので、迷子にならぬよう配慮しました。

さて朝10時、41人の参加者のもと日本橋三越前をスタートし、まず「小網神社」に到着し驚きました。東京屈指の厄除けスポットであるため、すでに200mほどの行列が出来ていました。そこで



少し風があったが、陽だまりの浜町公園で昼食

外からのお参りとし、「茶の木神社」に向かいました。

次の「水天宮」では昔の思い出を語る方々も多く、その次の「松島神社」ではそろそろおなががすいてきました。老舗名店目白押しの甘酒横丁を歩きましたが、買い物は別の機会とし、一心不乱に昼食場所浜町公園をめざしました。

午後は「笠間神社」、「末廣神社」をめぐる「根森神社」に。そして

元気よく日本橋福德神社前に戻って解散となりました。寒い中、参加者の皆さま全員最後まで踏破いただきました。厚く御礼申し上げます。

ワイズ関係参加者は石井、篠原(東京西)、中澤(東京たんぽぽ)、樋口(東京グリーン)、関(元広域石巻) (WHO事務局)

## 在京ワイズ合同新年会

1月13日、東京グリーンクラブ主催の在京ワイズ新年会が、YMCA 東陽町センターで行なわれました。94人の参加者でした。

新年会は3部構成になっていて第1部の礼拝、第2部のアトラクションはコミュニティーセンターで、第3部はカフェテリア室にて、賀詞交歓会をしました。

第1部では在京ワイズ会長会幹事菟淵光彦さんが開会点鐘をして会は始まりました。ワイズソング、祈禱と進んで、樋口順英東京グリ

ーンクラブ会長が歓迎の挨拶、来賓者の紹介をしました。

田口努 YMCA 同盟総主事、菅谷淳東京 YMCA 総主事が祝辞の言葉を述べて第1部は終了しました。

第2部のアトラクションは、アンディームジークによる、ピアノ、ソプラノ、サキソフォーンの新春コンサートでした。内容は歌曲、ジャズ、ミュージカルとバラエティー豊富で楽しませていただきました。

第3部はカフェテリアに移動し

ました。

まずびっくりしたのは、正面に大きな酒樽が置いてあることでした。ゲストによる鏡開きが行われました。乾杯は木の香りがする樹に、銘酒の「獺祭」が注がれていました。和やかに会は進み、佐野実行委員長の感謝の言葉、そして在京ワイズ会長会幹事金丸満雄さんが閉会点鐘をして、2024年の在京ワイズ合同新年会は閉会しました。(本川悦子)

合同新年会には関東東部、東新部、あずさ部他、94人が集いました



## 平和を願うYMCAオンライン祈禱会

日本 YMCA 同盟の呼びかけによる標記祈禱会が12月5日(火)19:00から ZOOM で開催された。

主旨は「今、この瞬間も、パレスチナの地で懸命に生きる人びとのために、武力によらない和解を願い活動している人びとのために、そして世界の平和のために、祈りましょう」。プログラムは、パレスチナ問題に詳しい有住航氏。現日本キリスト教団下落合教会牧師)のメッセージ(イスラエルとパレスチナとの戦争の背景、即ちイスラエルによるパレスチナの軍事占領、土地の強奪、人権侵害等両国をめぐる深刻で未解決な問題の解説等)、次いでパレスチナの

YMCA で活動する現地スタッフの詳しい現状報告、その他別の現地スタッフの報告、数名の祈りと続いて終了した。

参加者は150人ほどのことであつたが、その中に尊敬し親しくしているワイズメンが4人いたことは嬉しかった。

現地の YMCA スタッフの現状報告は生々しく、TV を見て感じるよりもはるかに強い現地の悲惨さを覚え、司会を務めた杉野歌子さん(元東西クラブ担当主事)も言葉を詰まらせる場面もあつた。この惨状を知るに大変よい機会であつた。

やや旧聞に属するが、病気のため原稿が遅れたことはご容赦いただきたい。(神谷幸男)

みつかる。  
つながる。  
よくなっていく。



ガザで200人以上の人びとが避難している  
YMCAの建物が包囲されています。  
この非道を止めなければなりません。

☆☆インタビュー☆☆119☆☆  
**利根川 太郎さんに聴く**  
 川越クラブ

\* \* \*



ケニアを訪問した利根川太郎・恵子（アジア太平洋地域会長）夫妻。マサイ族の方々と。

—最近『名前はこの世で一番短い物語』という文を読みました。利根川太郎さんというお名前は凄いですね。命名はどなたですか。

「命名者は父です。生まれてすぐに、名前は『太郎』だと言って、産婆さんに『そんなに慌てて決めなくても』とたしなめられたと聞いています」

—どこへ行っても、すぐに名前を覚えられたでしょう。

「小さい頃は、からかわれるのがいやでした。大学以降になると、相手は自分の名前を知っているのに、こちらは名前を覚えるのが苦手で苦労しました。社会人となってからは、すぐに覚えてもらえたり、何かの折りに思い出してくれたり、名前得をしているなど感じることがあります」

—小、中学、高校時代は？

「小学校時代は算数は好きでしたが、漢字や歴史、生物など記憶する科目が苦手でした。読書や体育も好きでした。中学、高校時代は、テニス部から剣道部に移り、高校は途中で英語部に鞍替えしました。高校2年生の時に出会った数学の先生に魅了されて学問としての数学を学びたいと大学は東北大学の理学部数学科に進みました。

当初は数学者になりたいという夢を抱いて学問としての数学を目指しましたが、教養部の終わり頃

から自分には数学の学問的才能が無いと感じ始めて、高校で数学を教えるのも良いかなと思いました」

「当時は大学紛争が東京などでは下火になり、地方大学に移っていました。学生寮もありましたが、寮だとデモに動員がかかるので、ノンポリの私は最初から下宿をしました。最初の2年間は賄い付きで、それまであまり好きではなかった魚料理が好物になりました。学部進学後の2年間は自炊をしていました。この間、バイト先の小さなビストロでまかない料理を食べることもありました」

—卒業後は、数学教師として埼玉県内の高校に勤務されました。

「38年間で7校移動しました。最初の赴任校で恵子と出会い、結婚しました」

—高校では県立浦和高校が長かったのですよね。

「浦和高校は期間も長く、一番充実した時間を過ごしたので深い思い出があります。運動部の顧問、生徒会の顧問をやりました。特に生徒会では、生徒・教師が、対等に心を開いて話し合えて教師冥利に尽きる日々でした。教員生活の最後は校長でした。

その後、国立研究開発法人・科学技術振興機構に6年間勤務し、主に『科学の甲子園』を5年間、『スーパー・サイエンスハイスクール』を1年間担当し、理数教育振興に微力ながら努めました。コロナ禍と重なった年は、『科学の甲子園』は思うように対面で実施できず残念でしたが、最後の年はどちらも対面で盛り上がり、本当に楽しく充実したイベントを経験できました」

—恵子さんは、早くからワイズに入会されていましたね。

「恵子は、自身がYMCAに育てられたとも語っています。その後、川越YMCAの英語教室を手伝っていた関係で、1998年に川越クラブにチャーターメンバーとして入

会しました。私は現役の時に入会しませんでした。女性のパートナーには『ワイズメネット』という呼称がありますが、男性にはないので、勝手に『メネット・ハズバンド』と名乗り、時々大会や催しに同行、参加していました」

—公立学校からみて、YMCAの良さを感じることはありますか。

「公立学校で教育の全てをカバーすることはできません。特に、私が教員として勤務してきた時代は、公立の教育機関では支えきれない生徒が顕在化してきた時代です。それまでもそのような生徒はいたのですが、不登校は学校が面倒を見るのが当たり前で、登校させようとする一点張りでした。様々な課題がありながら、少しずつ学校が外の力も借りて、社会全体で教育課題に対処していこうとして来た時代です。

—その中で、YMCAのようなNPO法人やそれを支えるワイズメンズクラブの存在は、非常に大切です。貴重存在だと思います。校長として勤務したときは、市の子ども家庭課や児童相談所、警察署の子ども家庭センターなどとも緊密に協力していました。そういった一環としてYMCAが委託運営している所沢市の「こぼと児童館」には所沢北高校の生徒が訪問して、ニュージーランド研修で経験した海外体験を子どもたちに伝えるなどの交流もしていました」

—現在のお仕事は

「現在は城西大学で数学教育法の講座を担当しています」

—今後ワイズでやりたいことは。

「2022年-23年度に東日本区国際・交流事業主任を務めました。24-25年度は川越クラブを中心に活動していきたいと考えています。この年度は当クラブの若手、山本剛史郎さんが満を持して、関東東部部長に就任しますので全力で支えるつもりです」

—有難うございました。

(吉田明弘)

## 気分転換は料理①

## 豆はまめな食材

村野絢子

2月は節分(立春の前日)。豆まき「鬼は外・福は内」は面白い風習、今は「鬼に内なる菌をやっつけて～内なる福はみんなにあげるから～」の気分。ここでの豆は炒り大豆。それを粉にすれば、きな粉、味噌に醤油、豆腐に湯葉に油揚げ、もやしに納豆…なんてこと、大豆の煮豆は店に並び、「呉汁にスープに五目豆」に自由自在の七変化。

さやえんどう(赤ちゃんの実をさやごと食べる)とグリーンピースも青えんどう豆、さやいんげんも同じ赤ちゃんとさや。店頭で絹さ

やを見ても区別ができない。えんどう豆は、赤えんどうはみつ豆に、青えんどうは砂糖を加えて和菓子の材料、うぐいす餡と呼ばれる。白いんげんも同様に和菓子の材料、白餡となる。餡が揃うには主役の登場、つぶあん・さらしあん、どちらがお好き?

あずきは小豆と書く。大豆が七変化の活躍に対し、お祝いの席にはお赤飯が必ずお膳を賑わす。寒い日にはお汁粉がご馳走。ぜんざいは粒あんのお汁粉。あずきは日本では甘いお菓子で大福もち・おはぎ・甘納豆・串団子・最中…きっとまだまだ。

塩味で食べるそら豆も皮付きのまま甘く煮たおたふく豆、皮を取って煮たふき豆と形を変える。大豆を未成熟で緑色のうちに枝

ごと収穫し、ゆでて食用にするとビールの友のえだ豆に。

大豆はメキシコではチリコンカンに使われる豆料理、カルバンソーはひよこ豆の名前でスーパーにも並ぶ。レンズマメも同様に小粒の大豆。肉を食べない方の大切なたんぱく質。このように豆は世界中で食べられる大切な食材です。



## YMCA Today

■ホテル学校では2年生が最終学期を迎え、専門性を磨く選択授業でラストスパートです。1年生はホテル実習が終わり、本格的な就職活動が始まります。各ホテルの採用活動は積極的で、既に60社以上の学内企業説明会が決定。卒業や希望就職に向け一人ひとりをしっかりサポートしていきます。

■能登半島地震の復興支援活動のため、1月7日から日本YMCA同盟と東京YMCAの職員が輪島市を中心に被災地を視察。内閣府から要請を受け、金沢市のいしかわ総合スポーツセンターに開設された1.5次避難所(高齢者や健康リスクの高い方のための避難所)のアドバイザーをYMCAがつとめ、引き続き全国YMCAのスタッフが交替で同避難所の運営サポートを行います。さらにピースボート災害支援センターを通して輪島市からの要請を受け、東京YMCAが中心となり、1月25日より輪島市町野町にある避難所(町野小学校・東陽中学校)の運営サポートを開始しました。2月末頃まで、常駐スタッフ1人の他、1週間ずつ交替でスタッフ2人ずつを派遣

し、輪島市の職員や関連団体とともに避難所での支援活動に従事していきます。

■先日1月24日の高田馬場駅では大変寒い中での募金活動となりましたが、国際ホテル専門学校、高等学院、山手学舎他、若いパワーも加わり能登支援のために心を合わせることができました。東京YMCAではこれまで高田馬場、東陽町、東京駅など5回の能登半島地震緊急支援「街頭募金」を行い、延参加者217人、募金総額は726,027円となりました。心から感謝を申し上げます。

■12月末まで受付けた「ハワイ・マウイ島山火事緊急支援募金」には合計636,874円のご支援をいただきました。被災した子どもたちのキャンプや、被災者の生活を再建する活動に用いられます。

担当主事 横山弥利

## 会計からのお願い

後期分の会費を例会に持参か、振込でお願い致します。

振込先 みずほ銀行方南町支店

普通口座 8027928

東京西ワイズメンズクラブ

(P2・中段から続く)

の? 日本での、松本での生活はどう? ご家族は? ご出身は? といった程度のことであるが結構楽しいひとときである。懇親会のプログラムのひとつなのか留学生ひとりひとりのパフォーマンスを演じる時間があったが、かのベトナム出身の女子学生は同郷人であろうか先輩格の女性と2人で歌いながらの民族舞踊を披露した。男子学生は失礼ながら何をしたか覚えていない。(神谷幸男)

## 編集後記

今年もはや12分の1を経過し2月となりました。2月は逃げる、とか言われますが、ワイズライフも日常生活も寒さに負けずピッチを上げないと、やるべきことを積み残しそうです。

WHOの運営がメンバーの高齢化の波に押されて厳しくなってきましたが、ワイズ仲間の応援をいただき無事実施することが出来ました。大変喜ばしいことです。

毎度のことながら原稿をお寄せ下さった方々に感謝します。

(S.K)